

## 平成30年度 生石保育園事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 保育園の情報を、わかりやすく伝えるためにホームページのリニューアルをしたところ、以前に比べ、保育園見学や子育て支援の利用者が増えました。
- 子どもたちが遊びや生活を通じて、「どのように育っているか」、「何を学んでいるか」を保護者に伝えるため、ドキュメンテーションを取り入れましたが、発信内容が観察文に留まり子どもの発達や学びの過程を提示するために、今後も分かりやすさや、伝えたい事が伝わるかどうか、表現方法や写真の選択について改善する必要があります。
- 平成30年4月当初は養成校からの新規採用と雇用形態の変更などにより保育士の確保ができました。年度末に正規職員2名と非正規職員1名の退職があったものの、正規職員2名と非正規職員1名の確保ができ、年度内に引き継ぎ及び研修等を行いました。
- 全体的な計画に基づき年間計画や、月指導計画、週日案を作成し、実践してきましたが、保育内容の見直しや改善には課題が見られました。また、保育の質の向上はもとより、職務に取り組む基本姿勢や業務の理解の面で課題が見られました。まずは行うべき業務の徹底を図り習慣化させていく必要があります。

②定員 90名、定数外 17名→合計107名

③事業日数 362日 (うち休日保育 69日実施)

#### ④開園時間

平日	7:00 ~ 20:00
土曜日	7:00 ~ 20:00
休日	8:00 ~ 18:00

⑤保育時間

早朝保育	7:00 ~ 8:30
通常保育	8:30 ~ 18:00 【標準時間認定】
	8:30 ~ 16:30 【短時間認定】
延長保育	18:00 ~ 20:00

#### ⑥職員数

園長 1名、主任保育士1名、保育士20名 (うちパート保育士10名)  
調理員 5名 (パート調理員 3名) パート用務員 1名 (障がい者雇用)  
嘱託医 (内科・歯科) 各1名 (年各2回健診)

## 2. 保育運営

### ①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

### ③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力(記憶、計算、判断、決定、言語理解など)と非認知能力(意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感)を育む。

### ④クラス体制

0歳児	もも組	2名	
1歳児	もも組	16名	保育士 4名
2歳児	ぶどう組	20名	保育士 4名
3歳児	みかん組	24名	保育士 2名
4歳児	りんご組	23名	保育士 2名
5歳児	めろん組	20名	保育士 1名
<hr/>			
合計園児数	103名		保育士 13名
主任保育士			1名
子育て支援担当保育士			1名 (パートタイム保育士)
延長・休日保育担当保育士			4名 (パートタイム保育士)
フリー保育士			1名
障がい児加配			1名 (パートタイム保育士)

### ⑤保育内容

- 乳児は、ゆるやかな担当制で保育を行い、じゃれつき遊びなどを通して子どもとの愛着関係を築くようにしていきました。子どもたちの発達についての勉強が未熟であり、子どもたちのできることまで保育士が行ってしまう場面も見られるため、子どもたちの発達を学び、よく観察し必要な働きかけや援助を行う必要があります。  
食事の場面では3対1でしっかりとよく噛み食べられるように進めていきました。落ち着いて食事はすすめられているものの、食器に手を添えることや、足をしっかりつけて食べることも

引き続き伝えていく必要があります。

また、1日の流れをもとによく遊び、よく食べて、よく眠るという生活のリズムが整うように保育を行いました。

- 子どもたちが落ち着いてじっくりと遊ぶことのできる環境作りを目標に保育を行いました。保育士主導の関わりも見られ、子どもたちが興味関心をより広げていくための関わりには課題があります。また、コーナー遊びを展開する上でも、目的をもった遊びの充実には課題があるため、発達に応じたコーナー遊びの教材や遊び方の見直しも行いました。
- 石井式漢字教育では、毎日の漢字仮名交じりの絵本を読むことなどで、絵本に親しみ、実際に絵本を題材とした製作を行うことをカリキュラムに取り入れ、絵本や物語に親しみを持てるようにしました。お話に出てくるものを実際に見たり触れたり作ったりする中で、言葉の理解にはつながりましたが、基本的な学ぶ姿勢を整えるところには課題があり、日々の活動の進め方などを見直しました。
- 音楽あそびでは、専門の講師に週1回指導をしてもらいました。保育士や友だちと様々な歌やリズムを楽しみ取り組むことができました。講師の方との連携や曲の選定、指導の仕方には課題も残しているため、日頃の指導の中から改善する必要があります。
- 毎朝の「意味ある運動」を通して、しっかりと身体を動かし前日の脳内のストレスを発散し、落ち着いて1日の活動に取り組むことができるよう努めました。専門講師による体育指導も引き続き行い、発達に応じた目標に向けて子どもたちが楽しみながら、運動に取り組んでいきました。
- 旬の食材を使用した調理活動や野菜の栽培などを通して食育活動に取り組む中で、子どもたちは食に対する興味や関心を持ち、食育活動に取り組むことができました。また、食育パネルを使用した指導では朝ごはんの大切さや、食事のマナーなどについても各年齢に応じて分かりやすく伝えるようにしました。

## ⑥家庭との連携

- クラス懇談会（年2回）では、保育方針や内容を文書や映像で伝えました。個人懇談会（年1回）・就学前個人懇談会（年1回）では、子どもの育ちについての確認をする機会が持てました。保育参加（年1回）では、園での子どもの育ち合う姿を確認してもらうことができました。家庭訪問（新入園児のみ）では、子どもの発達を確認し合うと共に、保育園の方針や活動の内容を伝えました。
- 送迎時の対応や連絡ノートを活用し、保護者とのやり取りを丁寧に行ない、園だよりや懇談会、ドキュメンテーションも活用し、保育方針や活動内容、子どもの成長への理解を深めるよう努め、家庭と協力して保育を進めていきました。
- 生活習慣の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを園便りやクラス懇談会で家庭に伝えました。家庭での生活リズムを保護者から聞き取り、生活リズムの崩れている子どもは、子どもの様子を見極めながら、家庭と連携して子どもの生活習慣を整えていきました。
- 園の保育の考え方や方法を知り安心して入園してもらうために、新入園児を対象に入園前のプレ保育を実施し、アセスメントを行うことで保護者が安心して子どもを預けられるようにしました。

- 転園や卒園児とその保護者には、園長、主任が相談窓口となり、相談ができる環境を整えました。その中で、不登校についての相談があり、継続してサポートをしています。

#### ⑦人材育成

- 職員間のコミュニケーションを積極的に図るために、部門別に話し合うなどの体制作りに取り組んでいきました。しかし、保育の中でリーダーシップを発揮したり、調整したりしながら保育士同士で高め合うことには課題も見られるため継続した取り組みが必要です。
- 職員とともに全体的な計画の内容を見返し、保育計画を作成することで、共通の目標を持ち保育を行えるようにしました。
- 個別研修計画に基づき、キャリアアップのため園外の研修を受講しました。(乳児保育・幼児教育、障がい児保育、保健衛生・安全対策、食育・アレルギー、保護者支援・子育て支援、保育実践、マネジメントなど) また、園内では(救命救急、アレルギー対応、感染症対応、不審者訓練、石井式漢字教育、子どものあそび)などの園内研修を行い、講師による研修(体育あそび・音楽あそび・絵画・造形)も実施しました。
- 新人保育士や経験年数の浅い保育士については、主任が中心となり保育の一日の流れをもとに研修を行いました。日々の保育実践の中でも園長や主任が指導を行いました。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

- 子育て支援について  
隣接する公民館と協力し、週1回(火曜日)実施しました。また、月1回の「さくらんぼ通信」の中で、子育てに関する情報を掲載し、子育てに役立つ情報を地域に向けて発信していきました。また、育児に関する相談などは園長や担当職員が窓口となり対応しました。
- 小学校との連携・接続について  
安心して就学を迎えられるように、学校行事への参加や園児と小学1年生との交流会や就学先の小学校に体験入学(年1回)に参加し、学校を知る機会を持ちました。
- 近隣の小学校で授業参観や、年2回の幼保小連絡協議会に参加し、情報交換を行い、保育園の取り組みを伝え、円滑な接続と連携に取り組みました。また、小学校の教員に保育園の運動会を見学に来てもらい就学前の子どもの育ちを確認してもらいました。
- 「生石地区の町づくり協議会」(構成メンバー: 保育園、民生委員・学校・支所・公民館・PTA・おやじの会・老人会・青年部会・幼稚園など)に参加し、保育園の機能と役割、必要性等を伝えました。
- 地域の高齢者との交流を継続して行いました。(こどもの日交流会、敬老交流会、運動会、生石地区文化祭参加、お一人住まいの老人の集い、高齢者施設交流会)
- 地元にある自然や社会を知る機会を大切にし、地域の方とも交流を深めながら社会体験活動を行いました。(垣生山登山、松山空港フェスタ参加、みかん農園見学、公民館清掃など)

### ⑨苦情処理

- アンケート等の回答の中で頂いた、意見や要望に対しては、全職員に周知し、速やかに改善計画を立て改善しました。概ね24時間以内に保護者に改善内容を伝え、回答書の掲示を行いました。また、対応途中の案件については経過を報告しています。

### ⑩リスクマネジメント

- 子どものアレルギーの状態に応じ、個別的な配慮をして安全に過ごせるようにしました。また、食事の提供は医師の指示書に基づき、適切に対応すると共に、アレルギー対応マニュアルに基づき、誤食を防ぎました。
- 大阪北部地震や西日本豪雨の際に危機管理マニュアルの見直しを行い、松山市と連携を図り、保育園としての安全対策について確認しました。また、災害に備え備蓄品（食糧、医薬品、毛布、乾電池）の点検については、リストに沿って、安全係・調理員で行い、アレルギー児に対応できる備蓄も備えました。
- 災害に備え、様々な想定（地震、火災、津波、風水害等）での訓練を実施しました。消防署と連携した総合避難訓練や全園児での津波を想定した高台避難訓練（生石八幡神社）を行いました。
- 災害時の避難場所は玄関掲示板に掲示しました。また、連絡方法や対策については、文書を配布し、保護者に伝えました。
- 松山市のMAC ネットシステム（情報配信システム）を利用し、災害時や危機管理、感染症等子どもの安全に係る事項について迅速な情報を発信し、啓発に努めました。
- 保健衛生や感染症マニュアルは園内研修などで全職員に周知しました。感染症の流行時は職員の手洗い・うがいの徹底と、玩具や園内の消毒を徹底し、感染防止に努めました。
- 毎日の安全点検と毎月1回、松山市のチェックリストに基づき危険個所を定期的に点検し、安全な環境を整えました。また、松山市の施設点検マニュアルに基づく施設点検を年3回行い、業者による遊具点検は年1回実施され、異常は見られませんでした。
- 深刻な事故はありませんでした。ヒヤリ・ハット事例を収集するも、同じような事例も多く収集する事の効果が発揮できませんでした。日常に潜むリスクを職員で共有し、安全な環境を作るよう努める必要があります。

### ⑪休日保育

- 日曜、祝日（69日開所）実利用人数180人、延べ利用人数482人でした。  
（自園の利用者19名、他園の利用者3名）
- 他園の子どもについては、利用申込時にアセスメントを丁寧に行い、安全・安心を心がけゆったりとした環境の中で過ごせるよう、1日の休日の流れに沿って保育を行いました。

### ⑫その他

- 安田式1、2歳児用雲梯を購入しました。
- ホームページを外部委託しリニューアルしました。